

第 243 回 都 市 懇 サ ロ ン レ ポ ー ト	(WEB セミナー) ゲストハウスの現状とコミュニティビジネスやワーケーションの可能性		
講 師	株式会社 Little Japan 代表取締役 柚木 理雄 様	開 催 日	令和 2 年 10 月 13 日(火) 18:00~20:00
講 師 プロフィール	<ul style="list-style-type: none"> ・農林水産省を経て、株式会社 Little Japan を創業し代表取締役に就任(2017年~) ・NPO 芸術家の村理事長(2012年~)、ゲストハウスサミット主催(2018年~)、中央大学商学部特任准教授(2019年~) ・東京浅草橋に地域と世界をつなぐゲストハウス「Little Japan」を経営 ・「シェア街」、「Hostel Life」などを運営 		
お 話 の 概 要	<ol style="list-style-type: none"> 1. ゲストハウスとは(歴史、現状、全国の事例) <ul style="list-style-type: none"> ・明確な定義はないが、①共用リビング、②素泊まり1泊から滞在可、③ドミトリ一がある、④水回りが共用、等を兼ね備えたものが多い ・コロナにより、特に都市部のゲストハウスで固定費の負担、外国人観光客減、競合ホテルとの価格競争等により廃業・オーナーチェンジが増えている。但し、コロナ前より、旅行者増に対し過剰に宿泊施設の増加が続き、供給過多であった。 ・このような状況下でゲストハウスの取組みは、長期宿泊、ワーケーション・多拠点居住、地域内での連携、クラウドファンディング活用等多様化している。 2. シェア街(オンライン、コミュニティビジネス) <ul style="list-style-type: none"> ・シェア街とは、シェアハウスに住む「住民」と住んでいないがまちに関わる「関係住民」をリアルな拠点やオンラインコミュニティでつないでいく仕組み。 ・「しごと」をして「つか」をもらい「きよてん」で使える仕組みを有している。 ・空家活用を点でなく面的に広げ、まち全体に広げるという考え方で取組みはじめた。 ・この取組みは、地方での関係人口づくりにもつなげていきたい。 3. Hostel Life(ホステルパス)(多拠点居住、ワーケーション) <ul style="list-style-type: none"> ・月額料金に応じたプランに応じ全国の 20 以上ある拠点を利用できる仕組み。 ・利用者には、東京近郊から往復 2~3 時間、満員電車で通勤・通学している人が職場や学校の近くのホステルを使うというケースが多い。 ・コロナに伴い、リモートワークが進み、多拠点生活の家としての利用が増加。また、人気のホステル/ホテルの加盟の増加、宿泊系より住居系・ドミトリ一より個室の方が好まれる等、宿泊・住居サブスクリプションサービスへ影響がでている。 		
意 見 交 換 の 概 要	<p>●ゲストハウスの建築基準法上の取り扱いは?</p> <p>⇒ホテル・旅館が多い。民泊は住居。用途変更に該当しない場合は、従前用途のまま。</p> <p>●行政に望む支援はあるか?</p> <p>⇒コロナの状況が元に戻るのに数年かかるとすると、行政からの支援を期待するより、新たなビジネスモデルを構築し生き残っていくことを模索する必要がある。</p> <p>●シェアまちで、リアルな拠点は所有しているのか?空家の掘り起こし方法は?</p> <p>⇒拠点は所有ではなく借上げ。空家の掘り起こしは東京の場合は紹介。地方では空家の掘り起こし・活用に向け、大学の研究・ビジネス・行政支援を組合わせ実施。</p> <p>●シェアまちで、リアルとオンラインはつながっているのか?</p> <p>⇒現時点ではつながっておらず、オンラインは Slack 等を活用したコミュニティの場。近い将来、VR 空間内でコミュニケーションできるようなものにもしていきたい。</p> <p>●ゲストハウスの近隣のお店・住民との関わりをどのようについているか?</p> <p>⇒町内会を、ゲストハウスに招待する等よい関係をつくっている。ゲストハウスの飲食店は日替わりメニューとし、地域の色々な人が料理をつくりにくるようにしている。近隣のお店などの地図をつくり宿泊者に勧める等はしている。</p>		
記 録 者 の ひ と こ と	ゲストハウスやホステルは、コロナにより苦境に立たされている一方で、オンラインやサブスクリプションを活用し地域性やユーザーニーズを捉えた新たなビジネスモデルの展開につなげていける可能性を感じられる等、大変興味深い内容であった。		

《都市懇サロン運営部会 委員 森川 祐二郎》